

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
家計 動向 関連	良くなっている	-	-	-	
	やや良くなっている	一般小売店〔書籍〕（従業員）	販売量の動き	・客単価は落ちているが、来客数、買上客数ともに増えた。売上は前年を越え、ここ数か月上昇傾向である。	
		コンビニ（店長）	販売量の動き	・以前と比べると売上は微増ではあるが増加し、特に2月後半から伸びてきた。客数に変化はないが、単価が上がり、買入金額が上昇してきた。	
		コンビニ（店舗管理）	来客数の動き	・来客数が下げ止まってきた。	
		家電量販店（経営者）	販売量の動き	・売上金額、客数、1品単価、客単価すべて前年より上回った。	
		観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・総売上は前年比103.9%、宿泊人数は同113.9%、宿泊単価は同92.9%となった。単価が低下したことで人数が増加したと考えられる。今後、宿泊単価の設定次第で人数の増減に影響が出てくるが、一度下げると再値上げは非常に難しくなる。	
		住宅販売会社（経営者）	お客様の様子	・2、3か月後に受注できるであろう展示場への来場者数が増えている。	
	変わらない		商店街（代表者）	お客様の様子	・セールも一段落して春物の動きが前年より鈍い。悪天候の影響もあった。
			一般小売店〔鮮魚〕（従業員）	販売量の動き	・最悪期を脱したのか、前年実績を超える売上となる営業担当者が何人が現れ始めた。
			百貨店（営業担当）	お客様の様子	・この時期、例年ならば春物の動きは全体の4～5割を占めているが、今年は3割台にとどまっている。これからの就進学などのセレモニー関連でも冬物のバーゲンで対応しており、低価格志向が強くみられることに変化はない。客単価が上がらず苦戦している。
			百貨店（営業担当）	単価の動き	・店頭で春物商品が並んだ現状では、客の購買意欲は高まりつつあるが、買上商品単価、客単価にはまだ復調の兆しは見られない。
			百貨店（売場担当）	来客数の動き	・客単価が低下したままである。
			スーパー（店長）	お客様の様子	・依然として、生活防衛、節約志向がみられる。野菜などを1個単位で購入するなど、不必要なものは購入せず、少量の商品だけを購入する傾向が強くなっている。
			スーパー（店長）	単価の動き	・3か月前と比べても客の買物単価が上がっていない。高価な商品や余分なものを買わなくなり上向きは望めない。
			スーパー（店長）	単価の動き	・ケース単位の飲料を購入するより、単品の特価商品を購入するなど、相変わらず単価低下傾向が続いている。
		スーパー（店長）	お客様の様子	・コモディティ商材中心の動きで、歳時記関連の商品は間際需要のみで、必要最低限の買物動向、生活防衛型消費志向は変わらない。商品を見て選んでいるが、実買いにはつながらず、単価の安い商品、買上点数も少なくなっている状況は変わらない。	
		スーパー（総務担当）	単価の動き	・前月に引き続き、客単価が前年を下回っている。特に1品単価が低下している。生鮮食品では、大きなバック商品が売れにくいようである。	
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・売上は前年比3%程度改善している。状況が悪いなか、若干の持ち直しがみられる。	
		コンビニ（経営者）	単価の動き	・低下し続けた客単価は下げ止まっているものの、反転する要素は感じられない。	
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・売上が改善している店舗も出てきているが、来客数は日によってばらつきが大きい。	
		衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・雪のため気温が低下し、冬物のセール品が良く動いたものの、春物についてはまだ動きが鈍い。	
	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・これ以上悪くならないと思っている客が多くなってきた。明日のことを心配しなければならない状況は解消され、現在では2～3か月先までは安心して見える状況にまで回復してきた。		

衣料品専門店 (総括)	単価の動き	・来客数はそれほど落ち込んでいないが、1品単価と買上点数が上がってこない。財布のひもは相変わらず固いままである。
乗用車販売店 (経営者)	単価の動き	・来客数や引き合いの数は増加傾向にあるが、受注は低価格車に限られている。販売増が収益増につながらない状況からも景気回復とはほど遠い。
乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・売上の大半が前月までの受注残であり、新規の受注はほとんど増えていない状況である。
乗用車販売店 (経理担当)	販売量の動き	・過去の受注残にて足元の売上をこなしているが、今年に入ってから、展示館でのイベントなどにおいても予定した受注がとれていない。補助金や税制の延長にも助けられて上期はしのげるが、先行きは厳しい。
乗用車販売店 (経理担当)	販売量の動き	・自動車の販売量は前年比3割程度増加しているが、補助金などにより前月までに受注したものが多く含まれている。現状の受注は以前の状況に戻りつつある。リコール問題もあり、様子見の状況である。
自動車備品販売店 (従業員)	販売量の動き	・今月も降雪量が多く来客数の減少から売上が鈍化しているが、後半にかけては車検などメンテナンスが伸びている。全体としては前年割れが続いている。
その他専門店 [ガソリンスタンド] (経営者)	販売量の動き	・取引先の車の稼働率は上がってきたようだが、まだ水準を下回っており、ガソリン販売量は採算ラインを下回っている。
高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・特に悪かった前年と比較すれば、売上は秋口から下げ止まりが見えてきた。しかし、売上のうち、件数が多いのは収益の悪い特別プランなどで、まだまだ厳しい環境は変わらない。
観光型旅館(経営者)	販売量の動き	・今年に入り宿泊客数は前年を1,000人程度上回っているが、昼食・日帰りの客数が前年を1,500人程度下回っており、売上は前年より減少している。
都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・レストラン利用客はほぼ前年並みだが、一般宴会の受注が低迷している。件数減少と人数減少で売上が前年比1割以上下回っていることに変化はない。
旅行代理店(従業員)	お客様の様子	・前年からの出控え、様子眺めの動きから、活発な動きになかなか戻らない。単価の安い商品にしか販売の動きが無い。
タクシー運転手	来客数の動き	・例年より天候が悪く雪の日が多かったため、タクシー利用の多い高齢者は極力外出を避けていた。日中は客待ちの時間が長く、夜の街も人出は少ない。客待ちタクシーが多いため駐車することも難しいときがあった。
タクシー運転手	販売量の動き	・2月半ばまでは、前年並みの売上を維持したものの、後半は天候が良くなり、前半の勢いがなくなった。
通信会社(社員)	それ以外	・前年末ごろから第4四半期にかけて、好転すると指摘されており期待感も強かったが、その指摘や期待感に見合う状況の改善は認められていない。
通信会社(役員)	販売量の動き	・過去、オリンピック開催月は高画質で視聴可能なデジタルテレビが売れ、それに合わせてケーブルテレビ契約が増加する傾向にあったが、今回は家計収入減少の影響からか目立った動きが見当たらない。
テーマパーク (職員)	来客数の動き	・相変わらず団体、募集ツアーの動きは前年比2けたの減少が続いているものの、旧正月に中国などからの観光客が堅調となり、個人客もまずまずの動きで、前年比5%程度の減少にとどまった。
パチンコ店(店員)	来客数の動き	・来客数と売上からみると、前年同期に比べ回復に向かいつつある。
住宅販売会社 (従業員)	来客数の動き	・今年になって客の動きを感じるようになってきた。これが継続するものか一時的なものかはまだまだ不確定である。
住宅販売会社 (従業員)	来客数の動き	・住宅版エコポイント制度が導入されたが、新築部門に関してはすぐに成果がでるとは思わない。
やや悪くなっている	商店街(代表者)	・街の人通りが激減している。その影響もあってか、今年に入ってメインストリートでも4店舗が閉店し、今月末にはコンビニも閉店する。悲惨な状況になっている。

	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・訪問件数は拡大策を採っているが、顧客の購買意欲が見えてこない。好調な企業でもかなりのレベルで経費削減を実施し、数年が経過しているが、一向に回復の兆しが見えない。	
	家電量販店（店長）	お客様の様子	・一人暮らし用の家電セットの売行きが悪い。使用中の家電を少しでも利用し購入は控えているようだ。	
	その他専門店 〔医薬品〕（営業担当）	来客数の動き	・既存店100店舗で3か月前と比較すると、来客数は5%程度減少している。	
	一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・1月末で販売促進も終わり、2月上旬は雪の影響で落ち込んだ。オリンピック開催中は、人気種目がランチ・ディナータイムと重なると落ち込みが著しい。ショッピングセンター内に新しくオープンしたデジタル3Dシステムを持つ映画館は好調と聞か、地元スーパーが撤退、競合店が居抜き物件に相次いで出店するなどあまり好調とは言えない。	
	都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・前年のリニューアルの反動以上に、売上は大きく低下した。特にレストランの売上低下が目立っている。	
	旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・大雪の影響が大きく、売上は個人を中心に前年比20%減少した。	
	通信会社（職員）	それ以外	・春先の新学期・新年度のシーズン需要増に期待していた。しかし、大手自動車メーカーのリコール問題に端を発し、先行きの展望が読みづらくなった。これらの問題が収束するまでは、景気に対するプラス要因には弱く、マイナス要因には敏感な状態が続いている。	
	通信会社（営業担当）	来客数の動き	・来客数が減少している。新生活スタートに向けての動きはあるが、まだ検討段階で実際に購入までは至っていない。しかも例年よりも購入に対して慎重になっているように感じられる。また、携帯電話業界では新しいモデルが出そろっていないため、買い控えの動きも見られる。	
	通信会社（営業担当）	単価の動き	・来店客が多いときであれば、薄利多売の方針で、ある程度目玉機種が増えてくるが、今月は値引き対象となる携帯電話自体が少なく、契約に結びつかないケースが目立った。	
	競輪場（職員）	販売量の動き	・1日当たりの購買額が下がっている。	
	美容室（経営者）	来客数の動き	・2月は売上、客数とも一年間を通じて低い月であるが、今年は特に前年と比較しても悪い状況である。同業者とは、オリンピックの影響で客が外に出かけないのが一因であるとは話しているが、心配な事態である。	
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・降雪の影響があっただけで、新築の展示場への来場者数が半減し、1～2月累計でも前年比マイナスとなった。	
	住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・客層が若年化していることもあり、価格を安くしたい客が増えている。価格を抑え、手元資金を少しでも増やそうとしている。	
悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・日増しに空き店舗が増えている。退店の理由として商店街自体の集客力が低下していることを挙げる場合が多くなっている。	
	一般小売店〔事務用品〕（営業担当）	販売量の動き	・売上が例年より低迷している。客は静観しているだけである。	
	住関連専門店（店長）	お客様の様子	・客は、かなり慎重になっており、今、本当に必要なものしか買わない。	
	その他専門店〔酒〕（経営者）	販売量の動き	・商品が動かず、どうしようもなく静かであった。	
	スナック（経営者）	来客数の動き	・前月同様売上は低水準のまま推移し、初めて赤字となった。客の話によれば、中小企業では徐々に良くなっているとされるものの、規模、業種、所得の格差が明確になっていると聞いている。	
企業動向関連	良く なっている	-	-	
	やや良くなっている	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注については安定感が欠けるものの、商品によっては変化の兆しがあり、数量面の増加がみられる。
		繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・相変わらず衣料関連全般の動きが悪いものの、車を中心とした非衣料関連の動きは良くなっている。

	税理士（所長）	取引先の様子	・取引先の取り扱う商品・製品の量が増加し始めている。悪いなかではあるが、製造業では量的に持ち直している。 ・受注については、前月並みである。
変わらない	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・住宅向けは相変わらず低調なものの、産業資材向けは前月同様に動きがある。
	プラスチック製品製造業（企画担当）	受注量や販売量の動き	・当社の市場である北米、欧州、国内とも受注が増えてこない状況が続いている。
	一般機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・生産数量ベースでは底を打ち、3月からは増加する。一方、単価についてはさらに厳しい要求があり、それに応じなければ受注が減少する懸念がある。
	電気機械器具製造業（経理担当）	受注価格や販売価格の動き	・ここ2、3か月の受注内容は、高価格帯商品、低価格帯商品ともあまり変わらず、数量的にもほぼ同程度の生産が続いている。
	精密機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・1月時点では手持ちの工事がほとんど無かったが、2月末になって年度末工期の工事の下請仕事が増えており、3月中旬までは忙しい日が続く。前年の11月も年末工期の工事の下請仕事が入り、これと似ているのは例年通りである。
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・年末から年始にかけ、デフレの影響を受け、品物が安くなったことにより、必然的に輸送会社のコストが低下し、運賃の低下が続いている。これに合わせ物量も低下している。
	輸送業（配車担当）	それ以外	・荷動きが停滞したままで変化のない状況が続いている。
	輸送業（配車担当）	受注量や販売量の動き	・製造業において、受注量が回復してきた様子が見えるが、引き続き踊り場状況が続いている。
	金融業（融資担当）	取引先の様子	・株価1万円割れの懸念が遠のいていると感じている。また、衣食住のうち食に関する需要が比較的堅く、現在より悪化する材料が少なくなっている。
	金融業（融資担当）	取引先の様子	・前年は大幅に落ち込み、その水準のまま売上高は推移している。落ち込みも無いが上昇も見えていない。
やや悪くなっている	新聞販売店〔広告〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・大手貸金業の撤退、中小の廃業で、駅前から貸金業事務所の多くが無くなったが、空いた事務所がそのままになっているところがほとんどである。
	司法書士	取引先の様子	・今も商品価格は下がっており、下げ止まり感がまだない。
悪くなっている	食料品製造業（企画担当）	受注価格や販売価格の動き	・建築・土木、官庁・民間ともに工事発注量が激減しており、価格競争がエスカレートするばかりで、採算を確保しての受注は難しい状況が続いている。
	建設業（総務担当）	それ以外	・法人経営・個人経営ともに、不動産関連では仕事が無いように聞いている。
悪くなっている	不動産業（経営者）	受注量や販売量の動き	
雇用関連	良く なっている	-	-
	やや良くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き
変わらない	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人広告件数は前年を下回っているが、前月より下落幅が縮小している。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・製造業を中心に、一部業種ではあるが、求人に回復傾向がみられるようになった。
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・年度替わりの行政機関関係の派遣需要が発生している。一般企業では依然として求人は低調であり、求められる人材のスキルが高くなっており、人材を絞らねばならず、成約も容易ではない。
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・3か月前と比べると求人数は増加しているが、回復基調にあるとは到底思えない。同業者で廃業を検討していると思われるところが増えている。
	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人数に大きな変動がない。
	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・求職者数の動向については、同水準で推移している。事業主都合離職者、在職者など特に大きな増減はみられない。
民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・いまだに部分休業を継続している企業もあり、紹介・派遣とも求人数は増える兆しがない。	
	学校〔大学〕（就職担当）	求職者数の動き	・進学者が前年比約2割増加したこともあり、求職者数は前年度を下回ることが予想される。

やや悪くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年比27.9%の減少となった。産業別では、卸・小売業で同56.9%、運輸・郵便業で同46.4%、サービス業が同43.2%、医療福祉が同32.1%とそれぞれ減少した。新規求職者数は同8.8%の減少となったものの、有効求職者数は同15.5%増加している。
悪くなっている	-	-	-